



報道各位

クロード・ガニオン待望の新作 「アリス & アルチュール」 島根県津和野町にてクランクイン！

この夏、クロード・ガニオン監督の11本目の劇場用・長編記録劇映画を製作いたします。

本映画は日本とカナダを結んで行ってきた独創的な映画づくりの原点や止まることのない創作意欲で作品に向き合うガニオンの奇跡を追う。ドキュメンタリーとフィクションを融合させ、ガニオンが生涯を通して追求してきた「真実」に迫る、映像プロジェクトです。

発見と再生の旅が始まります

ものがたりは、カナダのケベックと日本(津和野・京都・東京・沖縄ほか)を舞台に七十代の映画監督と十代の孫のこころの交流を描くロードムービー。日本の古民家の再生から自身の喪失と再生をテーマした祖父と孫の絆が、次世代への架け橋となっていく様を描きます。

クロード・ガニオンと津和野との出会い

ガニオンが日本の「空き家」と出会ったのは昨年の中。島根県の西部山口県の県境にある津和野に納屋付きの古民家を見つけ、山間にある城下町で、文化と教養の歴史の深い町に興味を持ちました。津和野を訪れたことで、その土地に一目惚れ。したことから始まりました。フランスのピレネー山脈での撮影を考え、温めていたプロジェクト「アリスとアルチュール」をこの津和野町に展開できないかと構想を練ることになったのです。

2025年夏にカナダ・ケベックでカナダパートの撮影がスタート！

その後、監督自ら津和野の古民家に移り住み、津和野の四季を体験。

いよいよ7月15日に津和野町の古民家でクランクインいたします。

つきましては本作品の取材をお願い申し上げます。

タイトル：『アリス & アルチュール』

公開時期：2027年

監督・脚本：クロード・ガニオン

出演：アリス/Kimi Daudelin

アルチュール/Claude Gagnon ほか



取材依頼

プロデューサー ユリ・吉村・ガニオン yurigagnon@gmail.com

鳥越一枝 kaz.torikoshi@gmail.com

あらすじ

75歳になった映画監督アルチュール・ウィナーは、公私に渡り50年連れ添った最愛の妻ケイコを突然の交通事故で失い、居場所のない失意の日々を送っていた。

引きこもりがちな祖父の元を訪れたのは11歳の孫娘アリス。祖父と祖母の人生と作品を記録したWEBページを一緒に作ろうと提案するが「自分の時代は終わった」と祖父から頑なに拒まれてしまう。

行き場のない喪失感を味わうアルチュールは、日本の山間地に空き家付き農地を見つけた。ある日突然に単身移住を決断し、アルチュールは期待と恐怖でいっぱいになりながらも変化を求め日本に出発した。

ある日、津和野町で静かな余生を送る祖父のもとに、カメラを抱えたアリスがやってくる。自分の貯金を使って一人旅でやってきた孫にアルチュールは驚愕しながらも嬉しさで胸が温くなる。二人は軽トラックに載せられた キャンピングテントで過去の撮影場所や旧友を訪ねる旅に出る。



監督メッセージ

学生の頃に見た日本映画がずっと脳裏に焼き付いていた。フランス系カナダ人であるケベックの若者たちは、そのころフランスに行くのが常だったが、反抗的な私は逆の道を選択した。生まれ育った居心地のいいセント・ヒヤシンス市からヒッチハイクでサンフランシスコへ大陸横断、そのあと客船の船底部屋で横浜に着いた。1970年、大阪万国博覧会の年、20歳になったばかりの時だ。

そして、10年間住むことになる京都。私にとってはかけがえのない第二の故郷である。映画を撮り始め、友人関係、家庭を築き、初監督作品である長編映画「ケイコ」を撮ったのは28歳のとき。

ひたすら走り続けた8年間、その集大成として製作した「ケイコ」は一般公開が記録的な成功を収め、現在に至るまで、長く愛され続けている作品だ。その上、日本映画監督協会から栄誉ある新人賞を受賞した。1936年設立の同協会において史上初の外国人受賞者となったことで、私は自信と映画を作り続ける勇気を得ることができた。

そして今回の11作目になる＜アリスとアルチュール＞では少数精鋭のスタッフ、監督はじめカメラ、サウンドを担うのは70代のシルバーチームで挑戦します。乞うご期待！

クロード・ガニオン